



大文字だより



発行所 一般社団法人 全国中小建設業協会 全中建 京都 理事長：勝本一登 編集発行人：太田康誠

〒604-0924 京都市中京区河原町通り二条下ル一之船入町375番地 スリーエスビル5階B号室 TEL (075) 251-1251 FAX (075) 256-3025 http://www.zentyukenkyoto.or.jp

絶えず成長を続ける、輝き続ける京都を実現

京都府知事 西脇 隆俊



あけましておめでとうございます。一般社団法人全国中小建設業協会 全中建京都の皆さんにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、「大阪・関西万博」の開催を通じて、多くの方に京都の伝統から革新までさまざまな魅力に触れていただきました。また同時に、文化庁の京都移転から3年目を迎え、国と協力して新しい文化政策を京都から創り上げ、世界に向けて発信できたことにより、改めて、京都の文化力の奥深さを再認識する機会ともなりました。

「美しい花を咲かせ続けるには、停滞することなく、変化し続けなければならない」。これは、室町時代に能を大成した世阿弥が「風姿花伝」に残した後人への心得です。当時の大衆芸能であった猿楽を磨き上げ、日本が世界に誇れる芸術である能へと昇華させていった世阿弥は、常に変化を恐れず進化していく努力の大切さを花に例えて説きました。千年の京都の歴史と文化も、そのときどきの先人たちが絶え間なく変化を繰り返して育てあげてきた、かけがえのない財産であり、国内外から多くの方が訪れる京都の魅力の源泉です。そして、時代の変化を柔軟に受け容れ、常に技術の進歩を人々の幸せにしなやかに結び付ける文化と心根が、今も昔も京都でイノベーションを生み出し続ける原動力となっています。

本年は、こうした先人たちからの「贈りもの」を活かして、人と人との絆や京都府と府民の皆さまとの信頼関係を大切にしながら取り組んできた、京都府総合計画の最終年度を迎えます。全ての営みの土台となる安心を確かなものとし、府民の皆さまが、未来を担う子どもたちをあたたかく育みながら、将来に向かって夢を抱いていける、「あたたかい京都づくり」を実感いただけるよう、取り組んでまいります。

私たちが生きる現代は、人口減少・少子高齢化に加え、気候変動やAIによる技術革新など、大きな変革期にあります。先行きを見通せない今こそ、京都の魅力を支える府民の皆さまや京都を訪れる多彩な人材と共に、先人から引き継いだ京都の魅力の源泉を磨き上げてまいります。そして、今年の干支「午」が象徴する、飛躍し、力強く前進する馬の如く、直面する課題を一つずつ乗り越えながら、前へ前へと絶えず成長を続ける、輝き続ける京都を実現してまいりたいと考えております。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

一般社団法人
全国中小建設業協会
全中建京都 理事長
勝本 一登



会員の皆様には、清々しい令和八年の新春を、ご家族お揃いで健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。平素は当協会の運営に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、資材価格の高騰や人手不足に加え、最低賃金や法定

福利費の値上げなど、事業コストの上昇が経営に重くのしかかりました。また、地域経済を支える中小企業の重要性が叫ばれる一方で、金融環境の厳しさや、若年層の入社希望が大手・公務員に偏る人材確保の難しさは、皆様共通の、避けて通れない課題となっています。このままでは、特に後継者不在の事業所において、技術と信頼が失われる廃業が増加するのではないかという懸念もございます。

しかし、私たちはこの美しい京都の街並みと、市民の安全・安心な暮らしを支えるのは、全中建の会員の皆様と、皆様が培ってきた「確かな技術」であります。私たちの使命は、厳しい時代の中

でこそ、その技術を守り、次世代に繋いでいくことに尽きます。技術を身に付け、継承して家族が協力して生計を立てて絆を築く。そして地域のために貢献するという、地域単位でお互いに支えあって生活しています。全中建京都ができた頃から、2代目、3代目と継承しておられる事業所も増えています。このように次世代の人達が、多少の苦労はあるが親父のあとを継ぎたいと思える業界にしているかなければいけないと思います。全中建京都は、この困難な環境を乗り越え、会員の皆様の経営基盤強化と持続的な発展を最優先課題として、以下の取り組みを強力に推進してまいります。

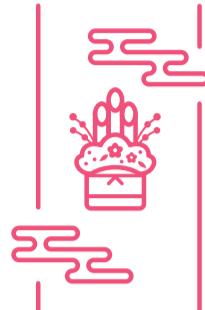
若手の育成と、地域での働きがいに

繋がる環境を整えるための施策強化。生産性向上、省力化に繋がるデジタル技術の活用支援。

京都市、京都府や関係機関、並びに長い間全中建京都を見守っていたいる顧問の先生方と連携し、中小企業としての貢献が正当に評価される事業環境の実現に向けた提言。

未来の京都の建設業を共に支えるため、皆様と共に知恵を絞り、粘り強く、そして前向きに取り組んでまいる所存です。

結びに、本年が会員の皆様にとって、ご事業の益々の発展と、ご家族皆様のご健勝に満ちた輝かしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

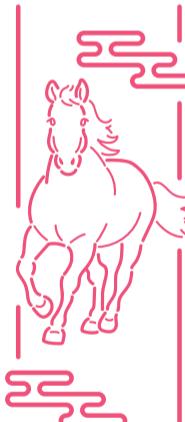


謹

賀

新

年



京都の理想の実現に向けて歩み出す年に

京都市長 松井 孝治



あけまして、おめでとうございます。

皆様にとって素晴らしい一年となりますことを、心からお祈りいたします。

さて、昨年末に、京都が千年以上にわたり継承してきた自然、歴史、文化などの「まち柄」を確認し、世界と日本、そして京都の現状を踏まえ、2050年を展望した京都のまちの羅針盤となる「京都基本構想」を策定しました。この構想は、京都の各分野を代表する方々、高校生や大学生をはじめ、25年後の京都でオピニオンリーダーになるような若い方々など多くの市民の皆様と、京都のまちが未来に向けて何を大切にすべきかについて意見を出し合い、議論を重ねた結晶です。

今後はこの構想の理念や価値観を拠り所に、「新京都戦略」を改定するなど、具体的な政策を展開していくかなければなりません。

京都では長い都市の歴史の中で、祇園祭をはじめとする年中行事や、人間の極致を体現する伝統産業や芸能、そして自然と共生する暮らしの文化が育まれてきました。これらを支えてきたのが、文化芸術、学問、産業、歴史、スポーツ、地域活動など、京都のあらゆる分野で技藝や技能を有し、人を惹きつける磁力を持つ方々、いわば「京都学藝衆」です。これらの方々の技や経験、想いを次の世代へと大切に伝えていくことが地域や国内外の人々から愛される唯一無二の価値を持つ京都の未来につながります。

京都市といたしましても、公園や図書館といった公共空間をもっと市民の皆様に開き、未来を担う子どもたちや若者が、市井に息づく豊かな知恵や学藝に触れる機会を創出し、「夢中」と「感動」が溢れるまちを実現してまいります。

そして、文化芸術、ものづくり、自治の伝統など京都の強みを生かし、若者の起業支援や新産業の創出、企業誘致などの取組を推進し、多彩な人々が交ざり合い、新たな価値を創造し、日本中、世界中の人々から、住みたい、働きたい、活躍したいと思われ、選ばれるまちを目指して様々なチャレンジを重ねてまいります。

新たな四半世紀に向けたスタートとなる今年の干支は「丙午(ひのえうま)」です。物事を力強く前進する意味が込められています。様々な課題を乗り越え、今日の京都の発展を築いてこられた先人の心意気を大切に、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる。そのような京都の理想の実現に向けて、力強い一步を踏み出してまいります。



新年あけまして

前衆議院議員
田中 英之

新年あけましておめでとうございます。

全中建京都の皆様におかれましては、お健やかに令和8年の新年を迎られましたことと心よりお慶び申し上げます。

勝本一登理事長をはじめ会員の皆様には、平素より私の諸活動に温かいご理解とご支援を賜っておりますことに心より御礼申し上げます。

微力ではございますが、皆さんのお役にたてるよう、尽力致しますので今後も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、近年、日本各地で自然災害が大きな被害をもたらしております。最大の特徴は頻発化、激甚化していることです。記録的な豪雨や猛暑、豪雪が増加しており、これに伴い、洪水、大規模火災、土砂災害などの被害が日本中で多発しております。これらに対応すべく、しなやかな国土をつくる国土強靭化の必要性はいうまでもなく、起こりうる災害に対し、地域を守る体制づくりの強化は、その具体性をもって推進すべきと考えております。また、業界の慢性的な人手不足、建設資材の高騰、労働時間の適正化等、取り巻く環境は厳しい状況が続く中、災害発生の

際にいち早く現場に駆けつけ、復旧にご尽力をいただくのは地域の建設業者様であります。社会に貢献する地場産業として、地域の発展と安全、安心に多大なご貢献をいただいている全中建京都の皆様に深甚なる敬意を表したく存じます。本年も引き続き、それぞれの地域においてご活躍くださいますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人全国中小建設業協会 全中建京都様の一層のご隆盛と、会員の皆様の事業のご繁栄、ご健勝とご多幸を祈念いたします。

本年が皆様にとって輝かしい年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

参議院議員
吉井 章

新年あけましておめでとうございます。一般社団法人全国中小建設業協会全中建京都の皆さまにおかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、勝本一登理事長をはじめとする全中建京都の皆様には、大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。

全中建京都の皆様におかれまして

は、情報交換会や各種研修会などの開催によりご研鑽を積まれ、「安全で安心な、住みよい京都の街づくり」「社会に奉仕する、力強い地場産業を目指して」のスローガンのもとに、京都府・京都市の均衡ある発展を担う建設業界として、様々な業務区分の会員の皆様により、社会基盤整備はもとより、地域経済の活性化にも多大なご貢献を賜っておりますことに深甚なる敬意と感謝の意を表します。

私も京都府選出の国会議員として、先ずは地域の声を国に届ける。そして、わが国の歴史と伝統を胸に、自分たちの国は自分たちで守るという強い信念のもとに、外交・安全保障政策の構築をはじめ、今こそ、国民の皆さまが安心安全な生活ができますよう全力を尽くして参ります。

また、本年は丙午の年で、大地を蹴って走り出す馬のように、自分の目標や夢が一気に動き出す年とし、全中建京都の皆様が、安心してお仕事に取り組んでいただけるような施策の充実を図り、様々なご要望にもお応えできるように、今後も力を尽くして参りますので、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げますとともに、一般社団法人全国中小建設業協会全中建京都の今後益々のご発展と、会員の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

京都府議会議員
田中 英夫

新年明けましておめでとうございます。

勝本一登理事長様をはじめ、一般社団法人全国中小建設業協会全中建京都の皆様には、令和8年の新春をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も一層のご繁栄がありますよう心よりお祈り申し上げます。

又、会員の皆様にはまちづくりへの直接の事業執行を通じて日々地域社会にご貢献いただいていることにも深い敬意を表します。

ここ数年、全国各地において地震や豪雨等自然災害が多発しています。こうした災害の教訓を踏まえた防災減災対策、地域の活力や安全な暮らしを支えるインフラ施設の長寿化は喫緊の課題です。昨年6月閣議決定の国土強靭化実施中期計画では、事業規模は今後5年間でおおむね20兆円強を目指して予算編成過程で適切に反映、と明記されました。こうした中で京都府議会自民党議員団は昨年11月、8年度予算確保について、財務省・国交省・農水省をはじめ、各省庁に要請活動を行いました。今後も国への要請と

京都府の予算確保に向けて、自民党議員団あげて頑張ってまいります。

又、後になりましたが、我々自民党に常日頃から力強いご支援を賜わり感謝申し上げます。中でも昨年は参議院議員選挙につきまして、格別のご支援をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。又、本年は知事選挙が予定されています。今後も変わりませぬご支援をよろしくお願いいたします。

結びにあたり、本年が皆様にとって最良の年となりますよう、併せて全中建京都の益々のご発展と会員皆様のご繁栄をお祈りし、新年のごあいさつといたします。





京都市会議員
山本 しゅうじ

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人全国中小建設業協会全中建京都の皆様方におかれましては、ご健勝にて新春をお迎えのことと存じます。

平素より、勝本一登理事長を中心とする、全中建京都の皆様方には温かいご支援を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

また、昨年七月の参議院総選挙におきましては、全中建京都の皆様方の力強

いご支援を賜り、さらに、十二月十八日には全中建京都様から京都市に対して多大なご寄附を頂戴いたしましたことに重ねて厚く御礼申し上げる次第であります。

昨年十月に、高市早苗新総理・総裁が誕生し、自由民主党にとりましては、希望の光を見出すことができましたが、依然として社会経済諸情勢は極めて不透明であり、とりわけ皆様方の建設業界におきましては、物価高騰、資材価格の高騰、人手不足という厳しい状況の中におられることと拝察しております。

私は現在、京都市会において、社会資本・都市基盤整備を担う都市計画局・建設局を所管する『まちづくり委員会』の副委員長を拝命しております。他の政令指定都市と比較しても遅れているインフラ整備に加えて、あらゆる公共建築物の老朽化、公共上下水道管路の更新作業は待ったなしの状況にあります。

京都市のまちの将来像を明確化する『次期都市計画マスターplan』の策定作業も大詰めを迎えており、京都市の安心安全な街づくりの推進のためにも、令和八年度の予算案や議案審議を通じて、議会としてのチェック機能を丁寧に果たして参りたいと存じます。

引き続き、顧問の平山たかお議員ならびに京都市会の諸先輩方と一緒に、国会・府会議員の皆様のお力をいただきながら力を尽くして参る所存です。変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本年『丙午年』は、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる年」と伝えられております。建設業界にとりまして躍動感あふれる素晴らしい一年になることを祈念し、全中建京都の更なるご発展、会員各位の社業のご繁栄と皆々様のご健勝ご多幸を心よりお祈り申し上げ、私の新年のご挨拶とさせていただきます。



京都市会議員
平山 たかお

新年あけましておめでとうございます。一般社団法人全国中小建設業協会全中建京都の皆様におかれましては、健やかなる新春をお迎えの事と心からお慶び申し上げます。

さて、令和7年10月21日に、我が国の憲政史上初の女性宰相ともなる高市早苗内閣総理大臣の誕生を見ました。

高市内閣は矢継ぎ早に、山積する国難に対処しようと様々な政策や方針を示されています。その中でも、特に私が着目しているのが「責任ある積極財政」という方針であり、その中でも、プライマリーバランスと呼ばれる基礎的財政収支という指標の見直しに言及されたところであります。至極単純に申し上げたら、そのPB指標というものは、年間の歳出は年間の歳入によって賄うとの指標だと私は理解していますが、失われた30年と呼ばれて久しいわけですが、そんなデフレ時代はPB指標に我が国の経済財政政策が囚われ過ぎていたからではないかと個人的には総括しています。すなわち、出すべき財政の出動や投資をしきれなかった30年でなかつたのかと考えています。戦後、我が国は世界でも類を見ない復興、経済

成長を果たしてきた事は、ご承知おきの事かと存じます。多くのインフラ整備や投資もその復興や成長の最中になされてきた事でしょう。平成に入り、今は令和。我が国は成熟期とでも呼ぶべき時期なのかかもしれません、戦後に整備された様々なものが老朽化してきているのも事実であります。どのようなインフラ設備などを次世代に繋ぐためにも、出すべき投資は厭わずとの高市内閣の方針に京都も呼応し、失われた30年から真の意味で脱却を果たす事が重要。そして、我が国の経済成長に繋げるために私も全力を尽くす事を改めてお約束申し上げます。

結びに、令和8年が、皆様方にとって、素晴らしい一年となります事を心から祈念申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

令和8年 年頭所感



一般社団法人
全国中小
建設業協会
会長
河崎 茂

令和8年 新年を迎えるにあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆さま方におかれましては、平素より中小建設業界の健全な発展のため、当協会の活動に対しまして特段のご理解とご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

昨年1月、埼玉県八潮市で道路陥没事故が発生し、社会基盤施設の老朽化対策が喫緊の課題であることを改めて浮き彫りになるとともに、近年は、気候変動による自然災害が甚大化・頻発化しており、今後もその増加が懸念されています。

こうした状況の中、国においては、防災・減災、国土強靭化の取組を切れ目なく推進するため、昨年6月、計画期間を令和8年度から令和12年度までの5年間、事業規模をおおむね20兆円強程度とする第1次国土強靭化実施中期計画を閣議決定されました。

我々中小建設業界は、こうした国土強靭化対策の担い手であり、地域住民の命と暮らしを守り、日々安心して暮らせるよう社会基盤施設の整備を生業とし、災害時には、最前線で地域社会の安全・安心の確保を担うことの使命としております。まさしく「地域の守り手」として重要な役割を果たしております。

しかしながら、地域の中小建設業界は、地方自治体発注工事へ依存する割合が高いため、各企業が持続的な発展を遂げていくためには、入札契約制度の適切な運用が不可欠ですが、現在、地方自治体の入札契約制度は適正な利潤が確保できないため、将来に不安を

抱えたままの経営となっております。入札契約制度の改善が図られ、予定価格に近い価格で受注できる入札環境が実現すれば、喫緊の課題である従業員の賃上げを含む待遇改善、若者の雇用確保へも計画的に取り組むことができます。

協会として、こうした認識の下に、「地域の守り手」のみならず、地域の中小建設業が、主要産業として、地域経済の活性化や雇用の維持にも貢献する「地域社会に貢献する力強い地場産業」としての役割を、今後とも果たしていくことができるようその環境整備に向けて活動してまいります。

協会会員・会員企業におかれましては、全中建の活動に対しまして、今後とも、より一層のご支援、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

新しい年が建設業界にとって素晴らしい年となるようお祈り申し上げますとともに、皆さま方のご健勝とさらなるご発展・ご活躍をご祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。

おめでとうございま

午

20

令和7年
12/18

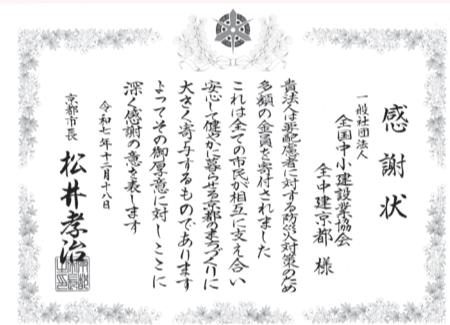
京都市に寄付

京都市役所において、前回と同様、高齢者や障がい者などを介護者に対する防災対策として40万円の寄付を行い、京都市から感謝状が授与されました。全中建京都からは勝本一登理事長、金光鐘楽相談役理事、山田孝司相談役理事、前田宗一副理事長、西村尚三副理事長、顧問である平山たかお京都市会議員、山本しゅうじ京都市会議員が出席、京都市からは松井孝治京都市長、上田純子保健福祉局長、八代康弘保健福祉局健康長寿のまち・京都推進担当局長らが出席されました。全中建京都では長年にわたり京都市教育委員会に寄付を、コロナ禍には感染症対策での寄付をしてきました。

松井市長は「能登地震や青森地震など、災害は待たない。例え我々自身が被災者であろうと、市としては支援していかなければならぬ。なかでも高齢者や

障がい者には物資のみならず手厚く支援が必要で、しっかりと行えるよう役立てていきたい。心から感謝いたします」と述べられました。

全中建京都からは「京都市民として安心・安全に暮らせるよう、災害があった時には真っ先に駆け付け、微力ながらもお役に立てるようになりたい」と述べました。

令和7年
7/18

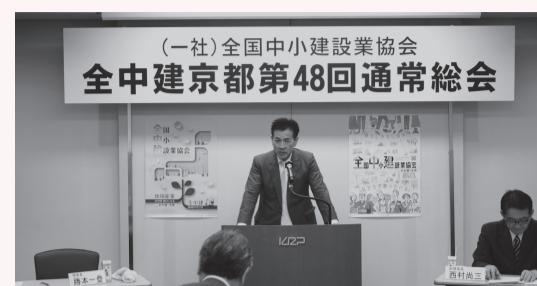
若手部会 総会

リーガロイヤルホテル京都において、若手部会総会を開催しました。今年度は役員改選年であり、4期8年会長を務めた土井朋広会長から新会長・豊川了政氏(有)光龍建設へバトンタッチしました。土井会長は「当初は長くても2期で交代するつもりでしたが、コロナ禍があり、それが明けたからすぐ交代では新会長が困るだろうと、8年間務めました。次の世代にバトンタッチしますが、若手部会には残させて頂き、皆様と共に新会長を盛り上げ、活気ある会にしていきたい」と述べました。副会長には加藤正義氏(株)カトウ住宅サービス)が選任されました。

豊川新会長は「副会長時代から全中建京都ラジオやチャリティーゴルフコンペの主催など、業界を活性化する取り組みが素晴らしいかった。そういった新たな挑戦を踏襲しつつ、若手部会は出席率も良いので、皆さんと共に協力しあって

若手部会を盛り上げていきたい」と述べました。

若手部会では、会員会社の皆様からの入会を歓迎しております。名前の通り、経営者でなくとも次世代を担う人材であれば入会可能です。案内は全中建京都ホームページに掲載しております。我々と一緒に楽しく、そして切磋琢磨しつつ業界共々盛り上げてくれる方、お待ちしております。

令和7年
6/17全中建京都
第48回通常総会

京都リサーチパークにおいて、全中建京都第48回通常総会を開催しました。今年度は役員改選年であり、勝本一登理事長および副理事長3名が再任、理事や監査役等に退任・新任がありますが、詳しくは本誌内の役員名簿をご参照下さい。

冒頭あいさつで勝本理事長は「建設業界を取り巻く環境は、資材の高騰、人材不足など慢性的な課題が直面している一方、国土強靭化や都市インフラの整備など

社会からの期待はますます高まっている。このような状況の中、京都の発展に寄与すべく、会員各社がご尽力されてきた事に敬意を表します。」と述べ、忌憚のない意見をご意見を頂きたいと挨拶しました。その後、西村尚三副理事長が議長に就任して議事進行、令和6年度事業報告と決算案、監査報告、令和7年度事業案と予算案、役員改選案を審議し、それぞれ全会一致で承認されました。

令和7年
2/13

若手部会 寄付

全中建京都・若手部会では、令和6年7月にチャリティーゴルフコンペを開催し、続いて全会員に趣旨への賛同と募金を呼びかけた結果、総額46万円を京都市に寄付しました。受納式では、京都市から並川哲男保健福祉局長、八代康弘保健福祉局健康長寿のまち・京都推進担当局長、平野徹子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部子育て担当部長、小田宏一建設局建設企画部技術企画担当部長、全中建京都顧問の平山たかお京都市会議員、山本しゅうじ京都市会議員、全中建京都からは土井朋広若手部会会长、勝本一登理事長、金光鐘楽相談役理事が出席しました。

京都市では、令和6年11月に「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」を制定、中でも昨今社会問題となっているヤングケアラーに対する支援という内容に着目、若手部会として応援したい想いから寄付を行いました。

土井会長は「介護に追われ、孤

[コンペ以外で募金して下さった会員]
岩本建設(株)、京和産業(株)、(株)鈴木メンテナンス、(有)スギテック、(有)光龍建設、(株)前田英工務店、西山グリーン(株)、(株)道原建設、(株)西村宇工務店、東和スポーツ施設(株)、(株)山村組、(株)日立工務店、(有)梅原金属工業、(株)新井建設工業、(有)古谷工業、高野建設(株)、吉田建工(株)、(株)英工、洛南建設(株)、(有)総合技建、光建設(株)



令和7年
11/28

チャリティーゴルフコンペ 全中建京都 若手部会



信楽カントリー倶楽部田代コースにおいてチャリティーゴルフコンペを開催しました。一昨年7月、全中建京都若手部会創立30周年記念事業として、かつて全中建京都として開催していたチャリティーゴルフコンペを、コロナ禍からの活動再開に合わせて若手部会として企画し開催、そして寄付まで行った(前頁記事)ところ、これは団体だからこそこの規模で実施できる事、有意義な寄付まで出来るのなら、今後も継続していくこ

うという話しになりました。

今回は合計55名のご参加を頂き、当日は絶好のゴルフ日和、定刻スタートで開催することが出来ました。初対面の人、久しぶりの人、各組では話も弾み、表彰式も含めて親睦がはかれたと思います。こんな時代だからこそ我々はしっかりと団結をし、今後も長く活動をしていこうとの決意を新たにしました。

チャリティーについては、参加費1名につき5千円を含んでおりましたの



でコンペで合計27万5千円、その後に全中建京都の全会員に募ってあります。この原稿作成時点ではまだ締切前ですので合計金額は未定ですが、令和7年12月18日に全中建京

都として京都市に寄付しましたので、続いて若手部会ではどこに寄付するか審議を重ね、今年度内に寄付する予定です。

令和7年
6/26

宇部興産を見学して

(株)カトウ住宅サービス 加藤 正義



若手部会研修旅行にて宇部興産の展示室に行って参りました。宇部興産は山口県宇部市にある世界的な化学メーカーです。2022年からは世界展開を意識してUBE株式会社に名称を変更しました。江戸時代に始まった石炭採掘は幕末では藩政を支え、明治時代では日本を支え、現在ではその業態を変え世界を支える企業へとなりました。世界的企業となった宇部興産の企業精神の源流である渡辺祐策の考えについての感想を綴ります。

● 沖ノ山炭鉱組合と渡辺祐策

日清戦争に勝利した日本は殖産を更に奨励していきます。1897年、宇部において新たな炭鉱が次々と開かれていきました。その一つに沖ノ山炭鉱組合があります。この炭鉱組合こそが、宇部興産の源流でありその頭取に就いたのが宇部出身の渡辺祐策でした。渡辺は、石炭はいずれ掘りつくされると考え、「有限の鉱業から無限の工業へ」の経営理念を持ち、多角経営を行いました。採石に必要な器具の製造修理を行

う鉄工所、セメント事業、窒素工業、硫安製造。電力・鉄道・学校建設を行い周辺整備も行いました。そして、1942年事業を統合して宇部興産が誕生しました。そして戦後は従来の事業に化学事業を始め、現在では世界的な企業となっています。

● 炭鉱の閉鎖から

思うこと

宇部興産はエネルギーが石炭から石油へ移り変わる中、1967年に炭鉱を閉山しています。一つの事業はいつか終わる時が来ます。一時期は売上を上げてい

てもその事業がいつまでも続くとは限りません。宇部興産は炭鉱を閉山しても他の事業は成長を続けました。今の事業が安定しているからと言って安堵せず、次の一手に投資する開拓精神が真価を發揮した時であったと思います。



古川行政書士事務所

行政書士 古川 隆文

建設業（許可・経審・指名願） 産廃許可
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄平野57-31
TEL (0774) 33-5677 FAX (0774) 33-6372
E-mail furuka@ares.eonet.ne.jp

「ずっと あなたのそばに 安心を」

保険のプロ! WEST

保険は「保険のプロ」にお任せ下さい！ 075-394-0871 本社・亀岡 共通電話番号
損害保険 生命保険 各種保険ご相談 [営業時間] AM 9:30～PM 18:00 (TEL受付17時まで) [休業日] 土・日・祝
株式会社 京都ウエスト 〒615-8106 京都市西京区川島滑桟町50-9 阪急桂駅東口より南へ800m
亀岡支店 〒621-0016 亀岡市大井町南金崎町田23-5 京都縦貫道大井IC降りてすぐ

We b版建設経済新聞 KJCねっと <http://www.kjc-news.co.jp>



公益社団法人日本専門新聞協会加盟

株建設経済新聞社

〒605-0963
京都市東山区本瓦町660-6
TEL (075) 541-0328 FAX (075) 541-0348
E-mail : info@kjc-news.co.jp

京都の建設情報メディア 日刊 建設タイムズ

<http://www.kyoto-kensetsutimes.co.jp>

〒611-0041 京都府宇治市檜島町落合119 TEL 0774-21-0011 FAX 0774-21-0022
ホームページ会員募集中! 「見やすく、使いやすく」見たい情報にもすばやくアクセス!!

京都建設タイムズ

検索

エリア・ウィンド 株式会社



令和7年
11/7

令和7年度 全中建若手経営者部会に参加して

(有)光竜建設 豊川 了政

東京にて開催され、若手経営者部会長の高木様より開会挨拶の後、一部は「建設業の現状と課題」として、国土交通省入札制度企画指導室長高橋様がご講演され、賃金引上げに向けた取組、建設資材の高騰に対する価格転嫁の推進、猛暑日を考慮した工期設定等働き方改革の推進、インフラ整備・地域の守り手である建設業がその役割を果たし続けられるよう、担い手確保・生産性向上・地域における対応力強化を目的に改正された第三次・担い手3法について講演いただきました。二部は①工事現場における熱中症対策②週休2日制など働き方改革の

現状と課題③担い手確保、建設業のPRに向けた取組みについての3つをテーマに、各地方の若手経営者部会代表者から実際の取組みについて発表を受け、それについて部会長・副部会長の5名がパネラーとなり、発表者への質問や取組の効果や課題点をお聞きする等、会場全体で議論を深めました。熱中症対策では、AIカメラ「カオカラ」により作業者全員の発汗状態等顔色から熱中症リスクを4段階に判定記録し危険度の高い者には対話や対策をとる取組、夏場の除草工事では6~12時を実働時間とするフレックスタイム制を導入。働き方改革への取組で

は、夏期・年末年始休暇を長期化し土曜は隔週出勤とする企業独自の休日カレンダーを策定し年間休日を増加させる事で若手社員の採用にも効果があるとの事だった。担い手確保・建設業のPRに向けた取組では高校・大学生らを対象とした土木フォトコンテストや現場見学会、若手社員と学生がテーブルを囲んでの座談会等、全国においても様々な取組をされており興味深いディスカッションとなりました。閉会後は懇親会となり、自由民主党参議院議員見坂茂範先生からも入札制度改革や若手経営者部会へ



の想いを語っていただき感銘を受けました。短い時間でしたが、同年代で頑張っておられる方々との交流もあり有意義な一日となりました。

令和7年
10/6

近畿ブロック別意見交換会

全中建本部主催の近畿ブロック別意見交換会が、福井地域交流プラザにおいて(一社)福井地区建設業界、(一社)大阪府中小建設業協会、全中建京都の参加で開催されました。全中建・河崎会長、福井・山本会長よりご挨拶の後、国土交通省不動産・建設経済局 建設業課 入札制度企画指導室 室長 高橋信博様より「建設業行政の課題について」と題してご講演をいただきました。

意見交換では、福井地区は近

畿地方整備局の管轄であるが、隣県の石川県では工事量が多く不調になった工事でも、北陸地方整備局の管轄である為、福井県は実績がなく参加できない。工事量の平準化の意味でも隣県参加を可能にしていただきたいと求めました。これに対し、災害復旧ガイドラインのように、平時の平準化の意味で前向きにとの回答があった。その他、i-Construction最新機種では非常に高価で導入しづらい、設計労務単

価は13年連続で上昇しているが他産業との比較では依然、年収で約80万円の差がある、低入札価格調査基準の計算式の改定、スライド条項運用基準の策定、そして歩掛アンケート結果では設定と実態の乖離を説明しました。いずれも真摯に耳を傾けられ、全中建側としては継続して訴える為にも意見交換会をしていく事が大事だという認識で一致しました。



全中建京都新年懇親会

ご多忙とは思いますが、多数のご出席を頂きますよう、お願い申し上げます。

●日 時
令和8年1月22日(木)

午後6時30分 受付
午後7時00分 開宴

●場 所
リーガロイヤルホテル京都 春秋の間

役員名簿

- ◆理事長
勝本 一登 (株)勝本建設
- ◆副理事長
山川 博行 (山川土木工業株)
前田 宗一 (株)前田英工務店
西村 尚三 (株)西村宇工務店
- ◆相談役理事
金光 鐘樂 (京和産業株)
山田 孝司 (光建設株)
- ◆参与理事
西村 勝代 (株)西村宇工務店
- ◆理事
井上 義昭 (株)井上建設
太田 康誠 (株)太田工務店

熊野 光守 (有)共栄建設
稻村 崇 (株)稻村工務店
大隈 弘幸 (京都住宅サービス株)
久保 阜司 (株)山梨組
石野 公士 (富士建設株)
坂田 晃啓 (洛南建設株)
市原 裕康 (市原工務店)

◆監査役
白川 義成 (株)白川工業
土井 朋広 (株)岸組

◆専務理事
井藤 忠 (全中建京都)

新入会員

- (株)S・K コーポレーション
(株)中村重建
(株)水原舗道
(有)ヴエルデ
(株)BUILD-S
(株)セキグチ・インダストリ
(株)藤野設備工業

大文字だより

編集委員長 太田 康誠
編集委員 豊川 了政
オブザーバー 勝本 一登
若手部会 会長 豊川 了政